

氏 名(本籍)	PHI THI DIEM HONG (ベトナム)			
学 位 の 種 類	博士 (商学)			
学 位 記 番 号	博商甲第9号			
学位授与の日付	平成29年3月20日			
学位授与の要件	学位規程第5条第1項該当			
学 位 論 文 題 目	A COMPREHENSIVE STUDY OF ACCOUNTING SYSTEM AND CONSOLIDATED ACCOUNTING IN VIETNAM: FOCUSING ON THE FACTOR ANALYSIS OF CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENTS			
論 文 審 査 員	主査	駒澤大学教授	博士 (商学)	小栗 崇資
	副査	駒澤大学教授	博士 (経済学)	
			博士 (商学)	石川 純治
	副査	東京経済大学教授		陣内 良昭

論 文 内 容 の 要 旨

As a new emerging country in Asia, Vietnam is becoming attractive nation for international investors (MoiT and UNIDO, [2011], p.10). Since the renovation in 1986, Vietnam's economy has changed significantly, for example the average proportions of GDP and the foreign trade growth have been around 7.5% and nearly 20% per year respectively (Chaponnière and Cling [2009], p.106). These achievements shifted Vietnam from country of staple food products to that of the highest export growth rate in Asia in 2007-2008 (ibid, p101), and had become an important nation of the region. The contribution of this change is Vietnam's effort in the regulatory reformation, in which the accounting sector's improvements have created significantly fruitful results. Unfortunately, up to now the goals of this renovation have been not yet reached. Especially the gap between the legal system and its implementation by enterprises still existed.

During the national economic development, Vietnam had joined many international organizations (WTO, AFTA, ASIAN, APEC), and now has been facing a lot of tensions of this integration. It seems more urgent when globalization is worldwide tendency nowadays. Paradoxically, under conditions of a developing country, Vietnam cannot adopt immediately all international standards for its national development. Since, it is not simple to successful integration, while the nation still wants to protect the value of traditional properties. This is why finding solutions for successful integration of Vietnam has become big concern to not only the government but also every enterprise.

With focusing on the consolidated accounting that engages the business combination of economic group, this study was conducted to aim exploring current situations in Vietnam. By searching influent factors for

preparing consolidated financial statements, the study made contribution to issuance of appropriate solutions to improve this situation.

Starting with research question, through the approach of combining document and data analysis, the core pictures of history and current development in accounting system and business combination were described. The contents of respective literature reviews were presented in Chapters 3 and 4, the information of practical cases were put forward Chapters 5 and 6. In addition to Introduction (Chapter 1) and Conclusion (Chapter 7) sections, the study attempted to propose the figure, diagram and interpretation to clarify logical methodology in Chapter 2. The data collection was conducted by a sample survey of 74 interviewees in total, including 15 of economic groups and 59 of accounting professional. They are the accountants, managers, auditors, researchers, consultants, lecturers and officials work at different organizations in Vietnam. By answering the questionnaires, designed for each group of interviewees, the responders expressed their views on practical side of the consolidated financial statements. A part from literature review, these views contributed to defining the influencing factors. With the primary data, the study analyzed continuously to explore the relationship among these factors using the analysis factor tools of SPSS version 20.

The findings indicate that although the convergence of Vietnamese accounting system with the international accounting standards has increased, the goal of harmonization is still far from expectation. Typically, the existing system of Vietnamese accounting standards was designed based on most of the content of international accounting standards. While the contents of international system came out in 2004, Vietnamese standards have not changed. Regarding the economic groups, they were established in 1990s, still there have been unusual points in their foundation and operation. Many State-owned groups have been under strict direct control of government. Therefore, the demand for the consolidated financial statements has been small. The current capital market and qualification of business managers are important causes of this situation in Vietnam. As far as enterprises are concerned, the internal regulations and business characteristics were found as the biggest influencing factors in preparing consolidated financial statements, while the legal framework is not the strongest factor as concluded by earlier researchers. Notably, the study provided the evidences regarding to both of positive and negative influences on accounting techniques and accounting knowledge respectively for consolidated financial statements preparation by economic group. The further findings can be taken as one of very few references on Vietnamese accounting in English, especially in building frame of factor analysis in the accounting sector.

論文審査結果の要旨

論文の概要と特徴

本論文は、国際的統合に直面するベトナムの会計において、複雑な歴史的発展を遂げてきた国内的な法制度やシステムが国際会計基準の影響によってどのような変化を遂げつつあるか、また証券市場

の発展の中で、企業グループの重要な投資情報となるはずの連結財務諸表が実際にどのように作成されどのように機能しているかについて説明を試みた研究である。

ベトナムはベトナム戦争終結後、南北を統一した社会主義国として国家の建設を進めてきたが、1986年以降「ドイモイ」と呼ばれる経済改革に取り組み、市場経済の導入に大胆に舵を切ってきた。しかし社会主義下でのこうした改革は様々な矛盾を包含しており、会計の面においても制度的・実務的に多くの困難を抱えた状態にある。

ベトナム政府は、今や多くの国際組織（WTO、IMF、世界銀行など）に加盟し、経済の国際化も回りつつある。そうした国際化は自国の様々なシステムの国際的統合（コンバージェンス）を目指すことでもある。会計においては、それは国際会計基準の導入となって現れる。ベトナムは2003年以降、国内の会計を国際会計基準と同様の内容に変え、ベトナム会計基準という形で基準設定を行った。しかし、そのモデルとした基準は、2000年以前に国際会計基準委員会（IASB）によって設定された国際会計基準（IAS）であった。IASBは2001年から名称も国際会計基準審議会（IASB）と変え、新たな体制で国際会計基準のバージョンアップを図り、国際財務報告基準（IFRS）の設定を行ってきている。現在ではベトナム会計基準は、かつてのIASをベースとした基準のままの状態であり、IFRSに対応した会計基準の改訂には至っていない。次々と改訂され新規に設定される国際会計基準に対応しきれないのが実態である。また国内の伝統的な仕組みもそうした統合と矛盾する状態にある。

会計の国際的統合の焦点となるのが、連結財務諸表である。なぜならば、国際的な資本市場は、企業グループとして活動する今日の大規模企業の財務情報を得るために連結財務諸表を求めているからである。したがって、ベトナムにおける会計の国際的統合を進めていくためには、連結会計を十全に駆使することができなければならない。すなわち、連結会計がどのように適切に作成され、どのように有用となるように開示されているかどうか、ベトナム会計の国際的統合の進展度合いを測るメルクマールとなる。日本でも1970年代末に連結会計を導入したが、それが普及し定着が図られるのにかなりのエネルギーと時間が費やされたことを経験している。同様の状態に現在のベトナムは直面しているといえる。

本論文は、こうしたベトナムにおける連結財務諸表の現段階における構造を、文献的かつ実証的に分析しようとした意欲的な論文である。

本論文の概要を見てみたい。

第1章では、ベトナムにおける連結財務諸表の作成をめぐる諸問題を研究対象に設定し研究課題とした理由と、その研究目的が示されている。本論文が連結財務諸表を研究対象とするのは、上で見たようにそれが国際的統合のレベルを測る主要な領域であるからである。そのうえで、研究の範囲と研究に使用される諸概念が述べられ、研究の目標をどのように設定すべきかが論じられている。

第2章は、研究方法について述べたものである。本論文は、文献研究と実証研究の双方を組み合わせる方法に立っている。最終的には、ベトナムにおける連結財務諸表作成の現状と特徴に関する、インタビュー調査から得られたデータを因子分析の手法によって解析し、その構造を明らかにすることを意図したものとなったが、その前提となる仮説を設定するうえでも、連結会計に関する文献研究に

比重を置いて研究がなされている点の特徴である。

以下、3章・4章が文献研究の部分であり、5章・6章が実証研究の部分である。

第3章は、ベトナムにおける会計制度（システム）がどのように歴史的に形成されてきたか、「ドイモイ」以降の経済改革の中で、どのように連結会計の導入が図られ、会計基準等が設定されてきたかが述べられている。この中では、連結財務諸表の歴史にも検討が及び、またベトナムの会計制度（システム）の国際的統合の現状が詳細に分析されている。

第4章では、ベトナムにおける企業グループの発展過程と現段階について検討を行っている。連結財務諸表作成の主体は企業グループであり、ベトナムの企業グループの分析を行うことが、連結財務諸表をめぐる現在の問題を明らかにするうえで重要となる。ベトナムの企業集団の特殊性は、その主たる所有が政府にあることである。全部所有から漸次的に株式の公開が進められつつあり民営化も図られているが、依然として企業グループへの政府の支配は強い段階にある。そこでは連結財務諸表の作成は、政府のためのものであり、資本市場の投資家向けの情報としては不十分なものとなっていることが分析されている。

第5章では、ベトナムの企業グループによる連結財務諸表作成の実態が検討されている。基礎データは詳細なインタビュー形式によるアンケート調査によって収集され、企業グループの関係者である管理者、会計スタッフや、専門職である会計士、監査人、コンサルタント、会計学界を構成する研究者、教員、政府の関係者などが調査の対象となっている。決して多いわけではないが、ベトナムの現状からすれば74の貴重な回答が寄せられたといえる。そうしたデータが、主として、企業グループの側の会計制度への対応と管理に関する部分と、それを取り巻く会計専門職の側の知識や技術、経験等に関する部分に焦点を当てて分析されている。

第6章では、5章で分類され集約されたデータについての因子分析が行われ、5つの仮説の検証が試みられている。「企業グループの連結財務諸表は会計基準にもとづいて適正に作成されている」「連結財務諸表は投資家の要請にこたえて提供されている」「企業グループの会計スタッフは連結会計の十分な知識をもっている」「連結財務諸表についてのベトナム会計基準は企業グループに有用である」「企業グループは法的制度に即して連結財務諸表を作成している」の5つである。

第7章では、以上の章の分析と検証から導き出された結論について述べている。ベトナムにおいて現段階では、5つの仮説は満たされず（連結財務諸表が十分な作成状況になく）、企業グループによっては連結財務諸表が作成されない場合あり、作成されたとしても欠陥の多いものとなっていることが分析の中で明らかにされた。その要因に関する因子分析においては、6つの因子（内的規制、会計技法、会計スタッフの技能・知識、連結会計に関する管理者の知識、法的枠組み、経営の特質）の関連が明らかにされた。このうち連結会計の機能不全の強い要因となっているのは、会計スタッフの技能・知識の不足と連結会計に関する管理者の知識の不足であった。従来の先行研究は、問題を法的枠組みの未整備という外的な要因に求めるのが通説となっていたが、本研究によって新たな知見が実証によって明らかとなった。そうした検証にもとづき本論文は問題を解決するための提案を行っている。

以上が、本論文が論じた内容であり、到達した結論である。

論文の評価すべき点

本論文の評価すべき点は、第1に、これまで世界的にも十分知られてこなかったベトナムの会計制度（会計システム）について明らかにし、さらにその中での連結財務諸表の作成状況について詳細に分析した点である。ベトナムを含む発展途上国は、いずれもグローバリゼーションの中で国際的統合の圧力をIMFや世界銀行等から受ける現状にあるが、ベトナムはさらに社会主義国でありながら市場経済を導入し、自ら国際的な市場に自国経済を開放しようとしている。中国と似た面もあるが、その姿勢はさらに積極的であり、その結果、国際的統合（コンバージェンス）と国内のシステムとの間に様々な矛盾が生まれる局面にある。本研究は、そうした世界でも稀な状況下でのベトナムの会計の特質を明確に分析している。日本でも、グローバルスタンダードと自国スタンダードとの間の矛盾を抱えているが、国際的統合へと進むベトナムの姿は、ある種の実験ともいえる状況にある。そこにおける問題の凝縮した構造を研究することは、ベトナムの個別問題にとどまらず、普遍的な教訓をもたらすものといえる。そうした本論文の問題設定とその検討内容について大いに評価しなければならない。

第2は、それと関連してベトナムの企業および企業グループについて解明した点である。ベトナムの上場企業は現在650社でその内の国有企業は443社であるが、新しく民間企業も100社以上生まれてきており、企業レベルでの変化も急速に進んでいる。その中から、企業グループが形成されてきているが、企業レベルでの改革の先端にあるのが企業グループであるといってもよい。日本を含む多くの国の経験は、経済発展の中心を担うのは企業グループであったという点である。ベトナムはまさにその過程にあり、どのように企業グループが形成され、どのように発展していくかは、会計の問題を越えて、ベトナム経済の今後を左右する重要な問題となっている。そこでは連結財務諸表がどのような水準で作成され開示されるかが、会計面からは非常に重要な問題となる。企業グループの発展と連結財務諸表の実施状況を結び付けて研究することで、ベトナム経済の中核的な部分の構造を明らかにすることができたと思われる。

第3に、本研究が文献研究と実証研究を有機的に結合した点である。多くの研究は文献研究か実証研究かに分かれるが、本論文ではその双方がバランスよく検討されたうえで、結び付けられている。まずは文献研究を通じて、ベトナムの会計の歴史を明らかにし、また連結会計の歴史もたどりながら、今日のベトナムにおける連結会計の現状が先行研究の中から浮き彫りにされている。そうした文献研究から得た知見を、実証研究における仮説に首尾よく転換することができた点が本論文の大きな特徴である。実証研究では、因子分析という手法を使っているが、その分析が有用な結果をもたらすことができた1つの要因は、文献研究の成果を生かすことができた点にあると思われる。

第4に、因子分析においてSPSSのツールを駆使して、先行研究では提起されてこなかった連結会計の機能不全の要因について、新たな知見を発見し大きな成果をあげることができた点である。先行研究では、連結財務諸表の適切な作成を妨げているのは、法的枠組みの未整備にあるとされてきたが、そうした外的要因だけではなく、企業グループにおける内的要因がそれ以上に大きく関係しているこ

とが本研究で解明された。企業グループの特殊な構造を背景とした、管理のレベルの問題や会計スタッフの技能・知識の不足等の問題がもっとも大きな要因であるというのがそれである。こうした新たな知見にもとづくことによって、改善のための有効な方策をとることも可能となる。ベトナムにおける連結会計の普及にとって意義のある知見であるが、その意味では、本論文は実証研究として成功したということができる。

第5に、実証研究と関連するが、アンケート調査によって重要なデータを収集することができた点である。アンケートの設計にはかなりの努力がなされ、10ページにわたる124の項目が設定された。インタビューを通じて74の調査対象者からの回答を得ることができたが、それらは企業グループの関係者や会計士などの会計専門家、ベトナム政府の関係者、会計学界の研究者からなり、数少ないとはいえ貴重なものである。ベトナムにおける経済と政治、学界の中心的なメンバーからの証言として、今後の研究においても価値あるデータとして評価されることであろう。本論文が大きな成果を上げたとすれば、このような基礎となるデータ収集のために多大なエネルギーが注がれた点にあるといっても過言ではない。

以上が評価すべき点であるが、本論文は題名にもあるように、ベトナム会計に関するまさに包括的な研究である。本論文はすべて英語で書かれており、ベトナム会計についてのまとまった研究として国際的にも注目されるものとなることを大いに期待したい。

評価と併せて、本論文の問題点と課題についても以下に指摘しておきたい。

第1に、ベトナムにおける国際的統合と国内システムとの調和がどのように図られるかについて論じられていない点である。それが直接的なテーマではないが、連結会計と個別会計との関係は必ず問題になる。日本でも同様の問題が生じており、連結と個別をEUのように「連単分離」で解決するのか、それともあえて「連単一致」の方向を目指すのかは重要な課題となる。ベトナムの中小零細企業はほとんど簿記的な実務のレベルにあると考えられるが、総体としてどのような会計改革を行うべきかはベトナム会計制度の今後にとって避けて通れない問題である。そうした底辺部分と大企業との乖離をどのように調整するべきか、さらに研究を進めることを要望したい。

第2に、本論文は、連結会計の普及のために会計専門家や実務家の技能と知識の向上を図るべきことを提言しているが、そのためには連結会計の理論が明確なものとなっていなければならない。本論文は、現状分析に主眼を置いているため、連結会計が抱えている理論的な問題や国際会計基準が提起している新たな概念的な問題についてほとんど触れないままで終始している。アンケートの中でもどのような連結会計の理論や理解が流布しているかについては調査されていない。また公正価値会計を導入すべきとの観点が論文のベースとなっているが、果たしてそれが妥当かどうか、ベトナムにおいてそれがどのようなシステムのもとに可能となるかなどについて論じられてはいない。連結会計の発展はこうした理論の展開に支えられなければならない。今後のさらなる検討が望まれる。

Phi Hong氏は、日本政府国費留学生として3年間の研究を全うしベトナムに帰国されることになるが、本論文に示されるように氏の研究者としての能力は非常に優れており、ベトナムの会計学界において今後大いに力を発揮されるものと思われる。今後の氏の活躍に期待するものである。

以上の評価を踏まえて、本論文は博士（商学）の学位を得るにふさわしいものと判断し、学位授与を可とした。